必要な知識の習得や生産技術の向上に努める。

また、エコフィードの品質を確保するため、食品残さの飼料化事業者やエコフィードを利用する配合飼料製造業者等は、エコフィード認証制度の活用に努めるとともに、エコフィードの利用に対する社会の認識と理解を深め、利活用を推進するため、食品加工業者や養豚農家等は、エコフィード利用畜産物認証制度の活用に努める。

さらに、エコフィードの継続的な生産・利用の推進を図るため、食品残さの排出者、食品残さの飼料化事業者、養豚農家、地方自治体等の関係者の連携を推進する。その際、国は、関係法令に設けられた制度を活用した事例やその運用について、地方公共団体等の関係者への周知を図り、未利用資源の活用等地域の実情に応じたエコフィードの継続的な生産・利用の推進を促す。

（３）子実用とうもろこし

子実用とうもろこしは、他の作物に比べ、省力的に生産可能であり、輪作体系に組み込むことで、他作物の連作障害の回避や地力・排水性の改善効果が期待される重要な濃厚飼料である。

一方で、台風等のリスクのほか、我が国の湿潤な気候下では、乾燥の追加コストが掛かることなどから、栽培適地や栽培時期の選定、耐湿性や耐病性品種の活用、排水性対策、防除対策、鳥獣害対策などによる安定的な収量と品質を確保することを通じて、低コストの生産を推進するとともに、輪作体系に組み込むことにより、他作物も含めた経営単位全体の収益性を向上させることで、生産・利用の推進に努める。

４　国内由来飼料の円滑な利用

養豚農家は、飼料用米、エコフィード及び子実用とうもろこしの保管・加工・給餌に必要な米粉砕機やエコフィード混合施設、とうもろこし用乾燥機などの機械・施設の整備を図り、国内由来飼料の積極的な利用に努める。

また、養豚農家は、国内由来飼料の提供者等の関係者と、自身の利用状況等について、情報共有に努め、国内由来飼料を適正な価格で調達することにより、国内由来飼料の安定的・持続的な利用を図る。

国及び地方公共団体は、養豚農家と緊密な連携を図りつつ、国内由来飼料の利用の実態を把握した上で、行政、国内由来飼料提供者等が取り組むべき課題について情報共有に努める。

四　豚の飼養衛生管理の高度化に関する事項

１　高度な飼養衛生管理の手法の導入

（１）高度な衛生管理技術の導入

個々の農家における飼養衛生管理基準の遵守徹底を前提として、グループ生産システムを取り入れたオールイン・オールアウト方式の導入や、マルチサイト方式、農場の分割管理、繁殖・肥育の分業化及び農場ＨＡＣＣＰの導入により、衛生管理の更なる充実・強化を図ることは、疾病対策のみならず生産性の向上の観点からも必要である。

生産者からは、疾病の治療のみならず、予防衛生、疾病モニタリング、繁殖技術指導等を含めた獣医師の専門知識・技術を活用した生産獣医療の提供が強く求められている。養豚農家の生産性向上に向け、獣医師によるベンチマーキングなどを活用したデータに基づく指導を推進する。

（２）アニマルウェルフェアの理解醸成

養豚農家が日々の観察や記録、豚の適正な取扱い、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、豚を快適な環境で飼養することは、豚が健康であることによる安全な畜産物の生産につながり、能力を最大限に発揮させ、生産性向上にも結びつく。

このため、令和５年７月に公表した「国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について」（令和５年７月 26 日付け５畜産第 1062 号農林水産省畜産局長通知）及び「豚の飼養管理に関する技術的な指針」（令和５年７月 26 日付け５畜産第 1065 号）の普及・定着を図る。

（３）薬剤耐性への対応

抗菌薬は、動物の健康を維持し、良質な畜産物を安定供給するために必要である一方で、使い過ぎなどにより薬剤耐性菌が増加すると、人や豚の治療が困難となり、豚の生産に影響を及ぼす可能性がある。

このため、薬剤耐性対策アクションプラン（令和５年４月　関係閣僚会議決定）では、抗菌薬の使用量の削減目標が設定されたことに加え、国連総会ＡＭＲに関する政治宣言（令和６年９月）では、食料・農業生産システムでの抗菌薬使用の大幅な削減が求められている。

養豚農業は、高度な衛生管理技術の導入や、ワクチン接種による感染症予防といった飼養衛生管理の向上により、抗菌薬の使用量は着実に減少しているが、畜産分野の中で最も多く抗菌薬を使用していることから、引き続き飼養衛生管理の向上及び抗菌薬の慎重使用に向けた取組を推進していく。

２　高度な飼養管理技術の導入

生産性・収益性の更なる向上と効率化、省力化の観点からは、１の取組に加えて、飼料給与の無駄を省き出荷時期の適正化を図る飼料給与や豚群のコンピュータ管理、豚舎の洗浄を自動で行う豚舎清掃ロボット、豚舎内の環境を自動的に調整する自動環境制御システムなどを、費用対効果を十分検討し、必要な知識・技術を習得した上で導入し、有効活用することが求められる。また、グループ生産システムの導入は、作業を集中的に行えるようになり、従業員の休日の確保が可能となるとともに、空舎期間における洗浄・消毒の実施により、疾病の発生防止も期待できる。

経営管理能力の向上の観点からは、ベンチマーキングによる経営診断を導入することで、飼料要求率や１母豚当たりの出荷頭数の改善が期待できる。

３　豚の排せつ物の処理の高度化・利用の促進

（１）排せつ物の処理の高度化